

株式会社エージーピー 2018年度第1四半期決算説明資料



空を想い、技術を極め、環境社会を創る。

2018.7.30

企業理念

AGPグループは、技術力を極め、環境社会に貢献します。

- ・ 環境に優しく、安全で豊かな社会の実現に貢献します
- ・ お客様に選ばれる技術・サービスを誠実に提供し企業価値を高めます
- ・ 燃える挑戦心を持った社員とともに成長します

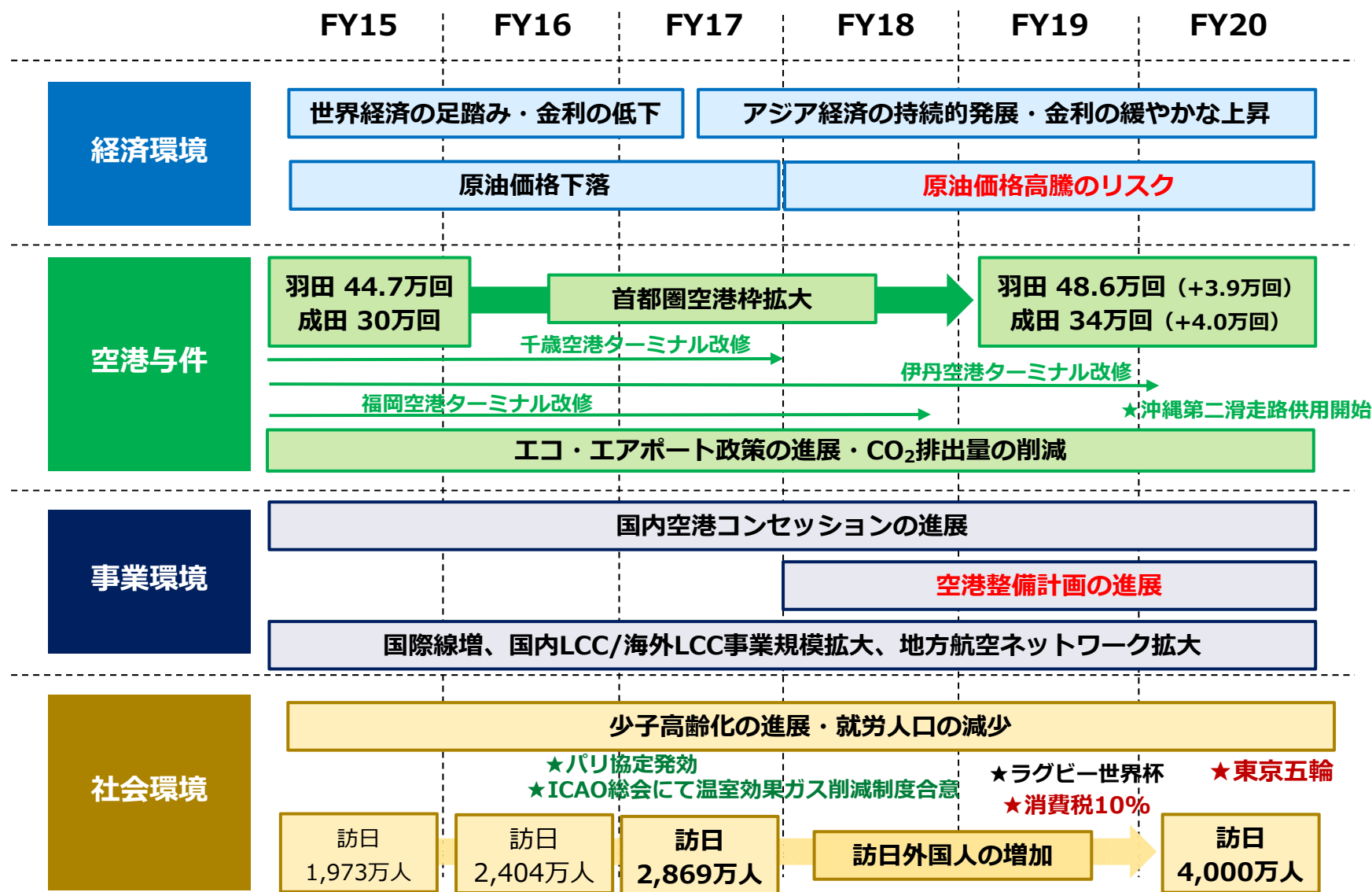
長期ビジョン2025(骨子)

AGPグループは、高い技術力と環境社会への貢献によって、空港インフラ機能を担う信頼される企業になるとともに、空港の安全を守るために培われた技術を日本中の街へ、さらには海外へとお届けします。これにより、今後10年間で

- ・ 売上200億円、営業利益率10%以上を安定的に達成できる企業になります
- ・ 空港外の売上比率3割以上を目指します
- ・ エコ・エアポートの実現を通してGPU利用を促進することにより、主要空港のCO2排出量を13.5万トン削減し、地球の温暖化防止に貢献します

(注) GPU : Ground Power Unit (地上動力供給装置)

当社を取り巻く状況



2018年度第1四半期業績概要

Executive Summary



- 2018年度第1四半期業績は、対前年では増収増益。整備・施設・セキュリティ事業は好調であったものの、主力事業である動力事業においては、前期比減収減益と課題あり。
- 対計画では、2018年度第1四半期の売上は未達であったものの、利益は若干上回って推移しており、**通期業績は期初の業績見通しを据え置き。**
- 自己資本比率は50%を超え健全な財務体質を維持。
- ドクターベジタブル社の清算により、売上は減少したものの、新規事業の収支は改善。

2018年度第1四半期業績サマリー



連結損益計算書

対前年同期比

(単位：百万円)

	2017年度 1Q実績	2018年度 1Q実績	増減額
営業収益	2,824	3,034	+210
営業費用	2,656	2,801	+145
営業利益	168	233	+65
営業利益率 (%)	6.0%	7.7%	+1.7pt
経常利益	169	228	+59
四半期純利益 ¹	104	93	▲11

営業収益内訳²

(単位：百万円)

	2017年度 1Q実績	2018年度 1Q実績	増減額
動力事業	1,344	1,330	▲13
整備事業	710	768	+59
施設事業	382	446	+62
セキュリティ事業	104	146	+42
フードシステム	34	27	▲7
新規事業	152	134	▲18
G S E等販売	96	181	+85
合計	2,824	3,034	+210

連結貸借対照表

対前期末比

(単位：百万円)

	2017年度 期末	2018年度 1Q実績	増減額
総資産	13,625	12,683	▲943
有利子負債残高	949	855	▲94
自己資本	8,471	8,422	▲50
自己資本比率 (%)	62.2%	66.4%	+4.2pt
ROE (%)	11.3%	-	-

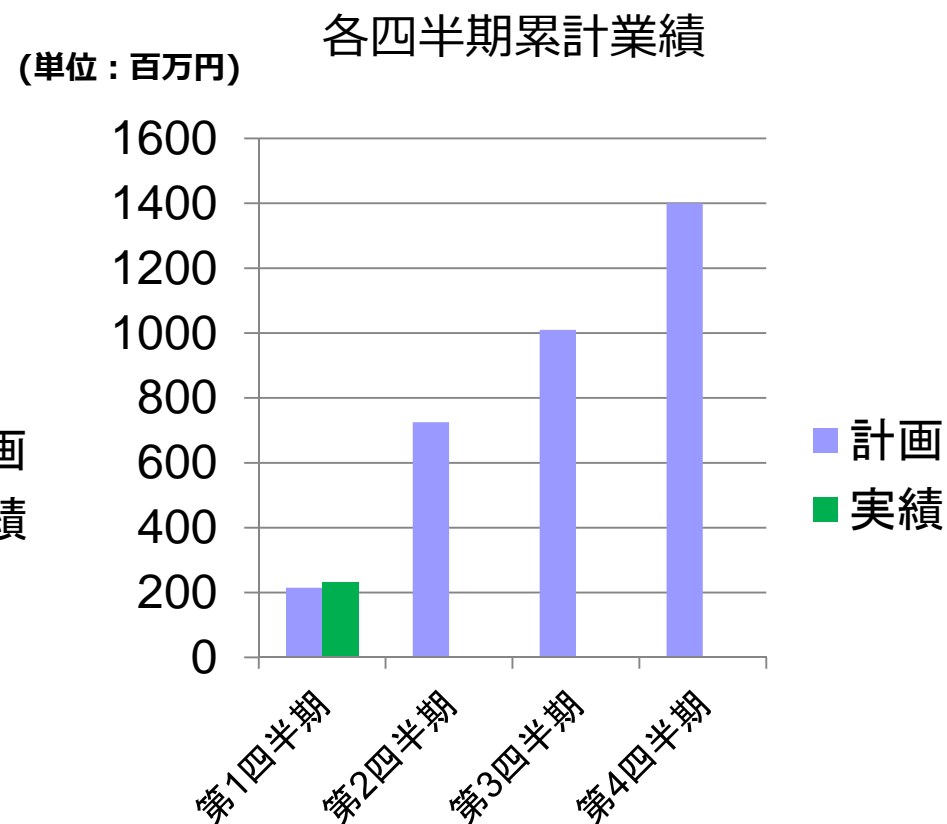
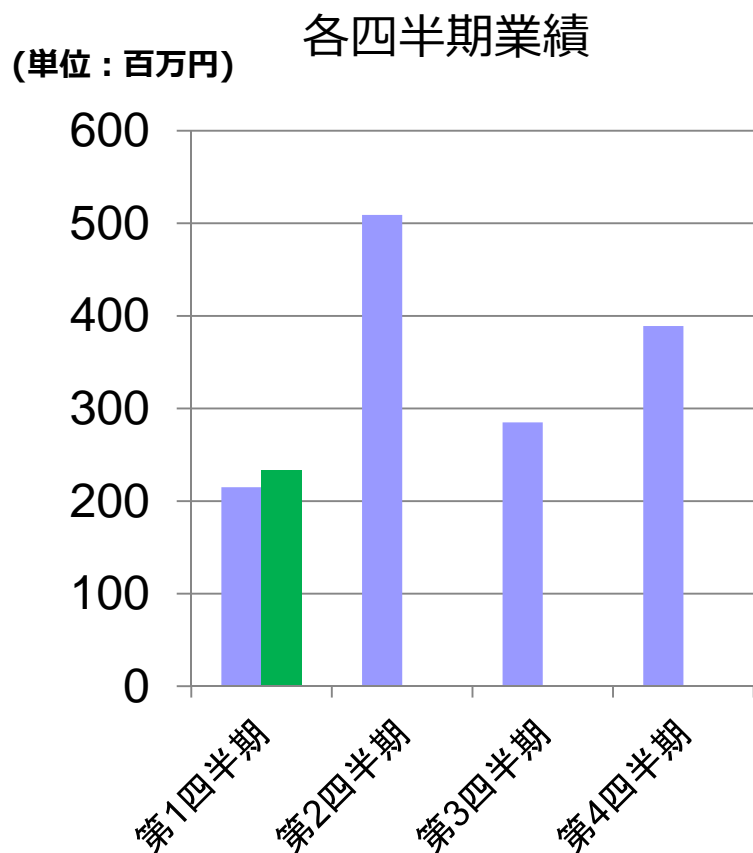
第1四半期時点では、対前年で増収増益、営業利益率も改善。但し、主管事業である動力事業が前年同期比減収となっており、課題が残るものの、全社通期ベースでは計画通り前期比増収増益基調を堅持できる見込み。

自己資本比率は60%超 (50%以上の確保が中期目標)

- 1 四半期純利益は親会社株主に帰属する四半期純利益
- 2 営業収益の事業別内訳は決算短信の報告セグメント別収入を組み替えて表示
制度会計では整備事業と施設事業を合わせて整備事業セグメント、セキュリティ事業・フードシステムソリューション事業・新規事業を合わせて付帯事業セグメントとしている

四半期営業利益の対計画進捗

営業利益段階で計画を達成しており、利益計画の進捗は順調。
(計画で第2四半期にフードカートの大型受注を予定しており、取り込みを
確実に行うことが重要)



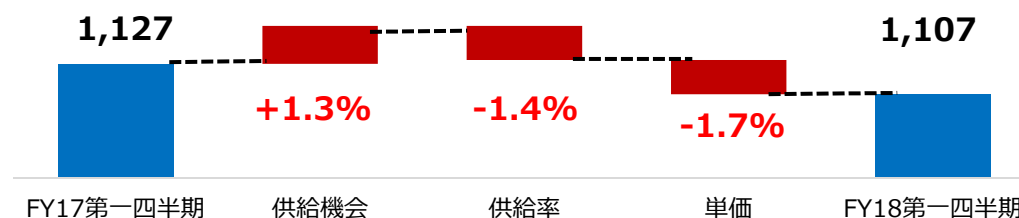
対前年電気収入増減要因分析

【動力事業】



(対前年 動力電気収入増減要因分析)

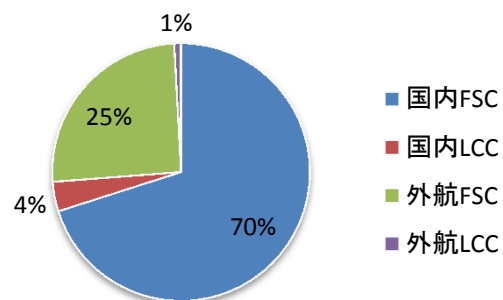
(百万円)



FY17/FY18 1Q 電気収入比較【ALL】

	売上 (百万円)				供給機会 対前年比	供給率 対前年比	単価 対前年比
	FY17 1Q	FY18 1Q	差異	対前年比			
国内FSC	781	776	▲ 4.8	99.4%	100.0%	100.6%	99.1%
国内LCC	42	41	▲ 1.2	97.3%	102.3%	90.5%	105.0%
外航FSC	296	281	▲ 15.2	94.9%	100.7%	97.5%	97.2%
外航LCC	8	9	▲ 1.9	125.8%	121.4%	123.2%	84.0%
全体	1,127	1,107	▲ 20.0	98.2%	101.3%	98.6%	98.3%

FY18 1Q 電気収入売上比率



【FY17/FY18要因分析】

外航LCCの増加により供給機会は増えたものの、外航FSCエアラインの供給率減や、B787の供給率の伸び悩み、平均使用時間の減による単価の減で対前年と比較し電力収入は減収となった。2Q以降は、供給率の低い外航FSCの取込等により供給率の底上げを行っていく。

供給率向上に向けた施策

【動力事業】

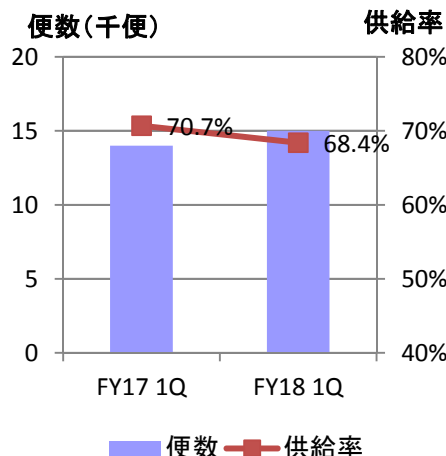


■ B787・A350供給率向上に向けた

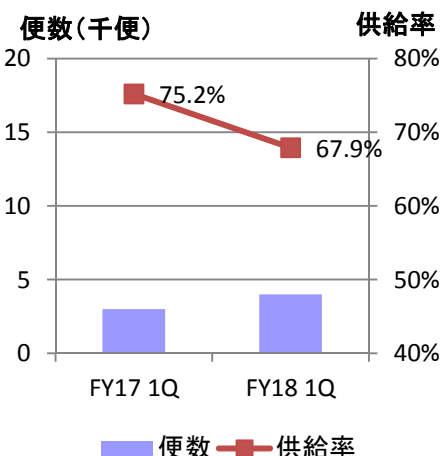
取り組みと実績

- B787・A350の供給機会は、前年対比で上昇
 - B787・A350の供給率は、前年対比で下降
 - 需要対策として電源設備180kVA化更新増強。
 - 固定設備（計89台）、移動機材（計28台）
- 一部の外航航空会社において、社内規定によりB787は固定電源を使用しない方針であり、供給率伸び悩んでいるが、国内FSCは問題なく使用しており、外航FSCに対し継続的に営業展開を進める。

■ 国内社B787の状況



■ 外国社B787・A350状況

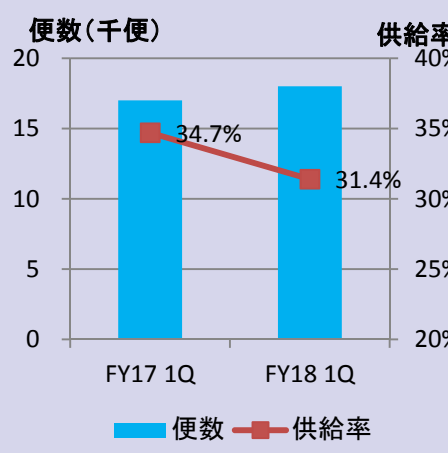


■ LCC航空会社の供給率向上に向けた

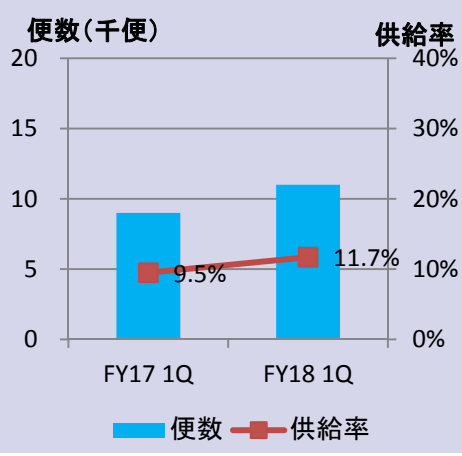
取り組みと実績

- LCC航空会社の供給機会は、前年対比で上昇
 - LCC航空会社の供給率は、前年対比で下降
 - 国内社LCC：バニラ・エア（関西）：供給率99%
 - ジェットスター・ジャパン（成田）：供給率79%
 - 外国社LCC：ノック・スクート（成田）：供給率100%
 - エアカナダ・ルーージュ（関西）：供給率100%
- 使用する航空会社と使用しない航空会社が明確であるため、個別で営業展開を進める。

■ 国内社LCCの状況

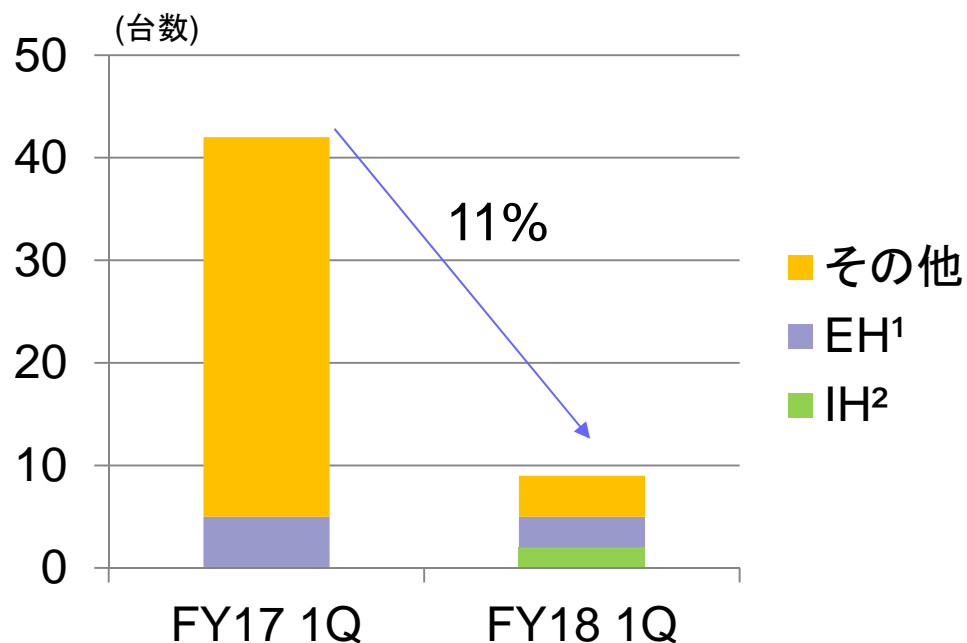


■ 外国社LCCの状況



フードカート販売状況

【付帯事業】

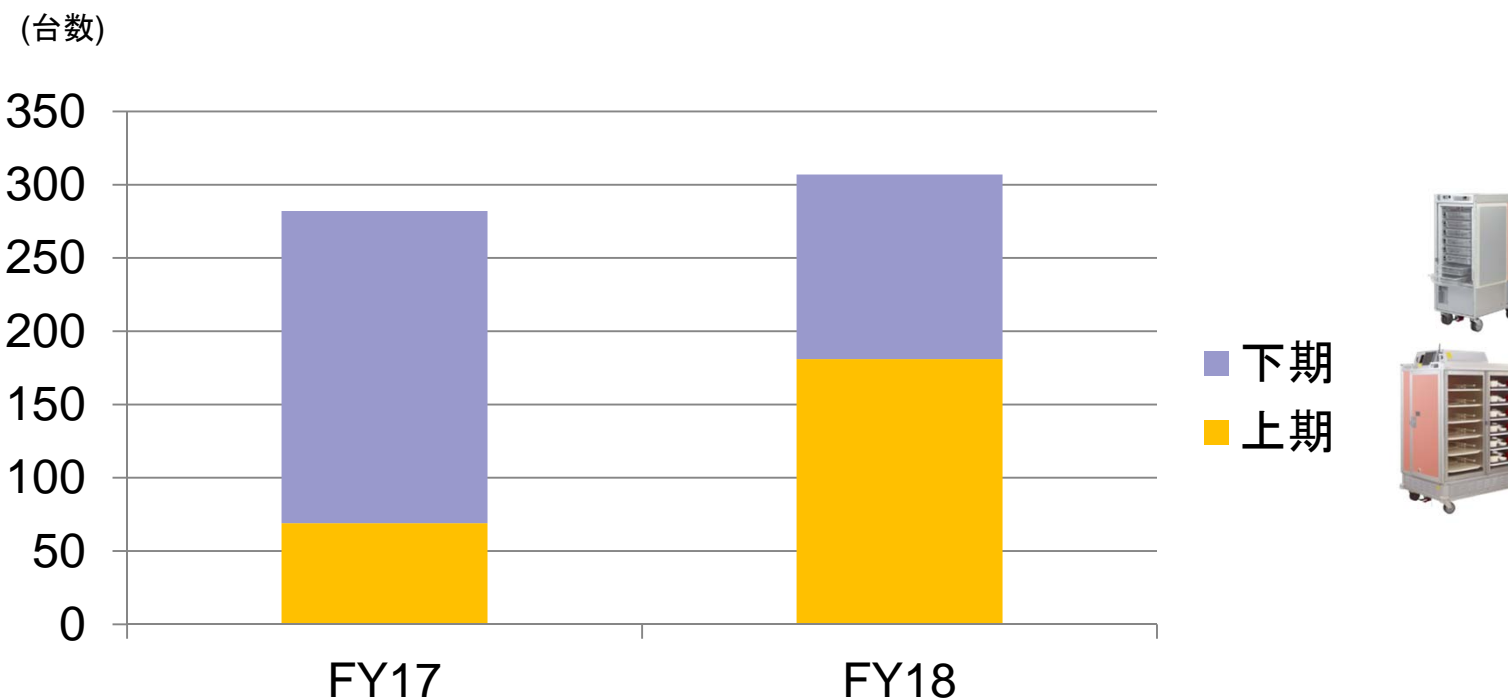


2018年度第1四半期のフードカート販売台数は、再加熱、その他カート共受注がなく、対前年と比較し受注は少ないものの、これは計画通り。

(件数/台数)	FY17 1Q	FY18 1Q	増減	備考
病院 (内リピート案件)	3件/37台 (2件/24台)	2件/4台 (1件/1台)	▲1件/▲33台 (▲1件/▲23台)	FY17は、病院向けにその他カート(搬送、下膳)の販売が32台発生
病院以外 (内リピート案件)	1件/5台 (1件/5台)	3件/5台 (0件/0台)	+2件/±0台 (▲1件/▲5台)	
合計 (内リピート案件)	4件/42台 (3件/29台)	5件/9台 (1件/1台)	+1件/▲33台 (▲2件/▲28台)	

1 EH : ヒーター加熱でチルド帯での保冷機能を備えた再加熱カート
 2 IH : 電磁誘導加熱(Induction Heating)技術を応用したチルド庫対応再加熱カート

フードカート販売通期見通し 【付帯事業】



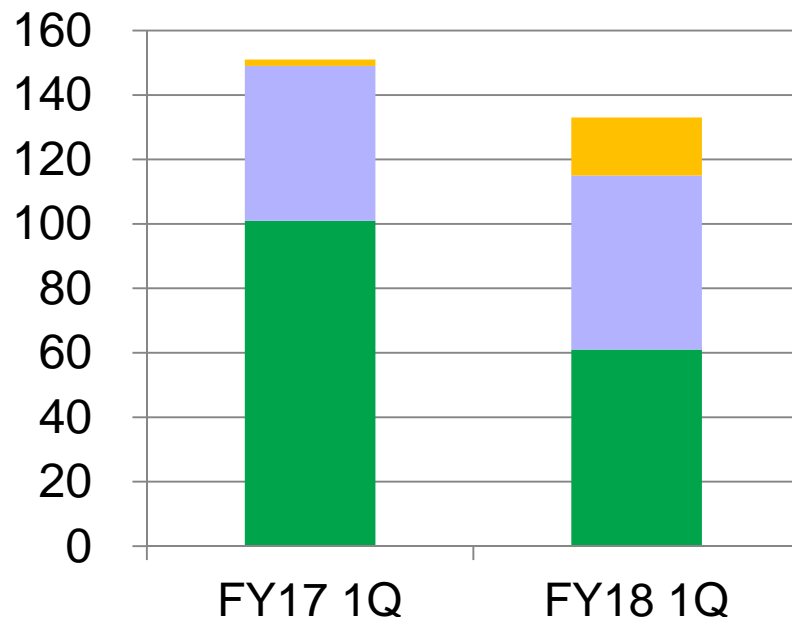
FY18は、上期に病院の大型更新案件（第2四半期）を含む180台の販売、下期にIH、EHカートおよび新給食システムのインカートクッキングの新規販売を見込む。

新規事業売上高

【付帯事業】



(百万円)



- 小売電気事業等
- ビジネスジェット支援事業
- 工場野菜生産・販売事業



工場野菜生産販売事業は、事業の抜本の見直しとして、低カリウムレタスの生産販売は継続するものの、サンドイッチ素材向けなどの業務用LLレタス¹の生産販売に軸足を移し、早期に収支改善のうえ、事業の黒字化を目指す。

ビジネスジェット支援事業は契約機数の増加等により、営業黒字を確保しており、提供サービスの拡大を目指す。

小売電気事業は、販路を拡大しており、早期営業黒字化を図る。

¹ LLレタス=ロングライフレタス



年間を通じたLLレタスの供給で 青果物の常識を変える



事業の抜本的な見直しにより、低カリウムレタスだけではなく、
完全閉鎖型の工場野菜の特徴を生かした
業務用ロングライフレタスに軸足を置き成長を目指します。

LLレタス の特徴



農薬不使用栽培

苦味・エグミも少ない

安定供給

気候の変動に左右されない

低生菌数

鮮度が長持ち

気候変動に左右されやすい露地栽培レタスは、市場価格の乱高下が激しい野菜です。また、異物混入のリスクが大きく、加工食品業界では野菜洗浄やマンパワーなどコストをかけているのが現状です。こうした露地栽培レタスの抱える課題を解決できるのがLLレタス。コンビニのサンドイッチ素材として評価を得ています。

新品種へ挑戦

植物工場では難しいとされる、
赤色レタスの栽培にも挑戦しています。
量産化のテスト栽培も順調に進んでおり、
新たな取引先への営業を進めていきます。



1Qレタス販売数量合計

業務用	33,659kg (370kg/日)
店舗販売	51,870袋 (570袋/日)

動力事業に係る電気調達の効率化を主な目的とし、小売電気事業を行ってきたが想定以上に空港外での需要が高く、社内キャンペーンや企業内生協と提携するなど販売代理店強化を図り、見積もり件数・契約合意件数ともに飛躍的に向上している。

* TOPICS

- 電力販売代理店契約：18社（6月末現在）
- インターネット回線【AGPひかり】販売開始

* 申込状況（2018年6月末迄）

種別	契約合意件数	見積完了件数	見積依頼件数
高圧	36	320	404
低圧	293	631	967



「AGPでんき」

お見積り・お問い合わせは下記までお願いします。

電話：03-3747-0071

email：agpdenki@agpgroup.co.jp

(注) AGPでは発電所を持たず、需給管理も大手新電力のバランスグループに入ること、極力リスクを抑えたスキームとしています。

首都圏初、成田空港でビジネスジェット専用ハンガーを2015年2月に開設。
定期駐機・臨時駐機および、クリーニングサービスも順調に推移。

事業内容

- **駐機スペースの提供** (広さ7,655㎡)
※ プライバシーを確保
- **地上ハンドリング業務、機材提供**
 - ・ 航空機電源供給サービス
 - ・ クリーニング・サービス (機体内外)
 - ・ トーイング・サービス (機体牽引移動)
 - ・ クルー等送迎サービス
 - ・ 窒素 (N2) 補充サービス
 - ・ 給排水サービス → 年内開始予定
 - ・ 保税倉庫サービス → 9月開始予定
 - ・ 機体整備支援サービス → 準備・検討中
 - ・ その他 (部品管理等) → 準備・検討中

写真：トーイング・サービス



写真：クリーニング・サービス (ブライトワーク)



- ・ 2015年2月1日より
駐機スペースの提供ならびに航空機電源供給サービスを開始。
- ・ 2015年8月20日よりトーイング・サービスを開始。
- ・ 2015年9月20日よりクリーニング・サービスを開始。
- ・ 2016年2月1日より航空機タイヤ等への窒素(N2)補充サービスを開始。
- ・ 2017年10月1日より整備士用事務室の供用開始
- ・ **2018年度第1四半期実績**
 トーイングサービス：計29機に対し 89回実施。
 機体クリーニングサービス：計6機に対し 9回実施。
 窒素 (N2) 補充サービス：計4機に対し6回実施。

	FY17 1Q	FY18 1Q
定期駐機契約数	4機	5機
臨時(SPOT)駐機機数	6機	14機
クリーニング機数	7機/14回	6機/9回

【定期駐機契約数の推移】

FY14 2月～1機 **FY17 9月～5機**
 FY15 12月～2機
 FY16 5月～3機
 9月～4機

第1四半期のTOPICS



- 【4月】 組織改正を行い、今後成長が見込まれるセキュリティ事業の営業強化、新商材の販売代理店開始にあわせセキュリティ事業部を新設
- 【5月】 物販事業の裾野拡大のため、輸入 G S E の販売を開始
- 【6月】 代表取締役社長の交代
- 【6月】 タイ現地法人の設立
これを拠点として当社主力事業の展開に加え、空港技術人材の育成および当社の知見が活用可能な現地需要に合った新規事業の創出を目指す
2018年6月設立
2018年9月事業開始予定

その他

2018年度業績見通し



連結損益計算書

(単位：百万円)

	2017年度	2018年度 計画	増減額
売上高	13,196	14,300	+1,103
営業費用	11,792	12,900	+1,108
営業利益	1,403	1,400	▲3
営業利益率 (%)	10.6%	9.8%	▲0.8pt
経常利益	1,389	1,380	▲9
当期純利益 ¹	914	850	▲64

連結貸借対照表

(単位：百万円)

	2017年度	2018年度 計画	増減額
総資産	13,625	16,400	+2,775
有利子負債残高	949	1,350	+401
自己資本	8,471	9,180	+709
自己資本比率 (%)	62.2%	55.7%	▲6.5pt
ROE (%) ²	11.3%	9.6%	▲1.7pt

期中改善による営業利益率10%、ROE10%の達成を目指す

営業収益内訳³

(単位：百万円)

	2017年度	2018年度 計画	増減額
動力事業	5,370	5,460	+90
整備事業	3,742	3,750	+8
施設事業	1,848	1,950	+102
セキュリティ事業	440	540	+100
フードシステム ソリューション事業	605	720	+115
新規事業	643	1,070	+427
GSE等販売 事業	544	800	+256
合計	13,196	14,300	+1,103

事業環境が良好な空港内既存事業の事業基盤の確立を図りつつ、成長戦略の加速を両立させ、売上高140億円を計画。

1 当期純利益は親会社株主に帰属する当期純利益

2 (当期純利益*) / (期首・期末平均自己資本)

* 当期純利益は親会社株主に帰属する当期純利益を用いて計算

3 営業収益の事業別内訳は決算短信の報告セグメント別収入を組み替えて表示

タイ現地法人の設立



【概要】

会社名：Airport Ground Power (Thailand) Co.,Ltd

所在地：54 Sukhumvit 21(Asoke), Klongtoey Nua, Wattana,
Bangkok 10110
BB BUILDING 7階No.3703

代表者：山口 栄一

出資金：20,000,000THB

株主構成：AGP75%、AGPD12.5%、AGPK12.5%

開業予定：2018年9月(予定)

従業員数：日本人駐在員1名、現地採用2名（開業当初）

事業内容：TISO(貿易ならびに投資支援事務所)として認可

- ・ 商品調達に関する情報提供
- ・ 機械、機器、設備に関する卸売りのための輸入、運用支援、据え付け、トレーニング、メンテナンス、修繕等
- ・ タイ国内で製造された製品の卸売

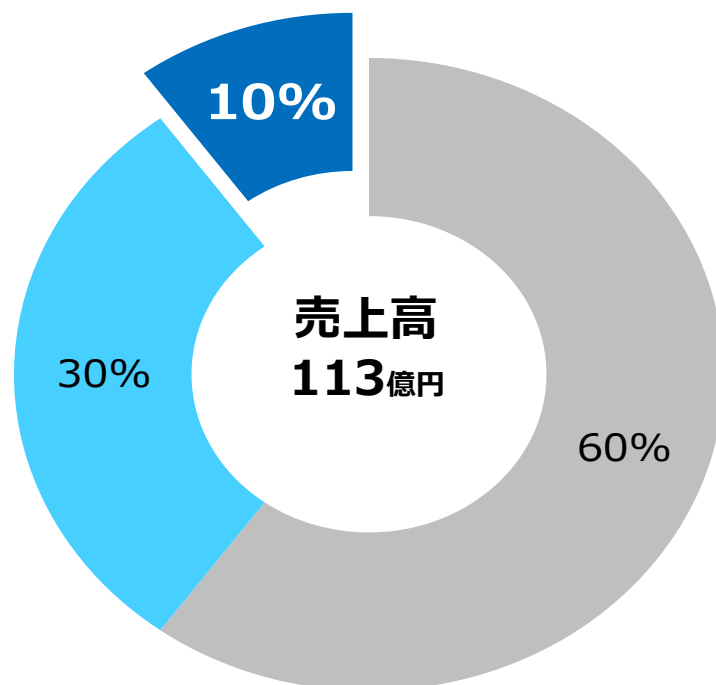
顧客別売上割合



航空産業のイベントリスクに備えるため、航空会社・空港会社などの既存顧客以外の新規ビジネス領域を開拓・強化し、FY19迄に空港外売上比率2割以上を目指す。

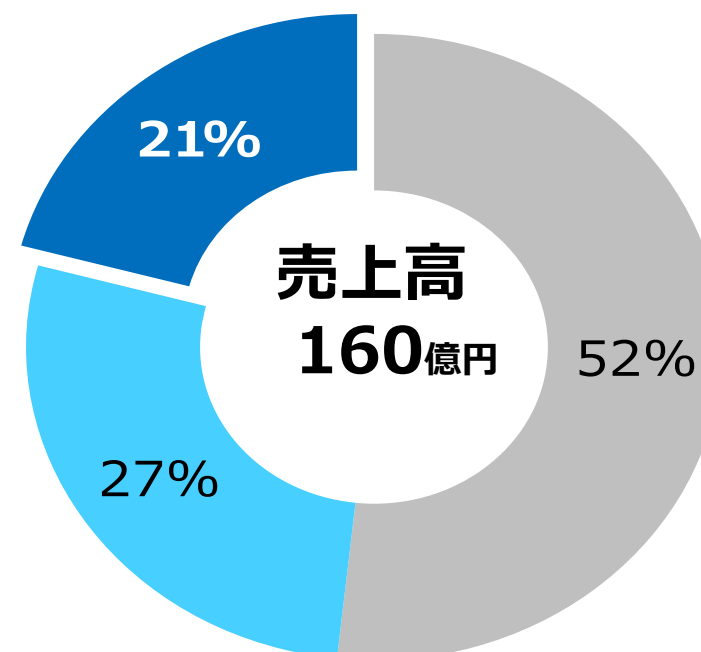
<FY13売上割合>

■ 航空会社 ■ 空港会社 ■ 航空・空港以外



<FY19売上割合>

■ 航空会社 ■ 空港会社 ■ 航空・空港以外



環境への取り組み実績

CO₂ 排出量の削減

(単位 : t-CO₂)

(t-CO ₂)	FY17 削減実績	FY18	
		削減目標	1Q実績
CO ₂ 削減量 *1	312,159	318,000	77,407

*1 GPUの利用によるAPUからのCO₂排出削減量
対象空港 : CTS・NRT・HND・ITM・KIX・UKB・HIJ・FUK・OKA

エコ・エアポート活動 取り組み実績 (全支社・支店)

	FY16 活動実績	FY17 活動実績	FY18 1Q実績
活動項目 件数 *2	61 件	59 件	36件

*2 1つの活動項目を1件とカウント
例) 1つの支店で「エプロン清掃活動」を2回実施しても1件とカウント

環境への取り組み 事例紹介



エコ・エアポート活動

※「エプロン清掃」と「エコドライブ」は、全支社・支店 実施項目



CTS エプロンクリーン活動



NRT エコドライブキャンペーン参加



NRT 空港周辺道路美化活動



ITM ごみゼロキャンペーン参加



KIX ごみゼロキャンペーン参加



KIX エコドライブキャンペーン参加



AGPO 会社周辺クリーン活動



本社・HND 環境展示協力
品川エコフェスティバル
(羽田空港広報連絡会)

スマートプロジェクトの取り組み



1. 動力供給データ・設備点検データ等分析システムの展開

- ・ 供給データ入力作業の簡素化
- ・ 動力分析システムの簡素化

2. 設備点検作業の省人化・省力化の推進・自動運転化の推進

- ・ 移動機材による動力供給サプライ用紙電子化及びデータ化
- ・ ウェラブルカメラを活用した運用
- ・ GPU車両の自動運転化のための基礎調査

3. 業務文書の電子化・定例報告作業の自動化推進

- ・ ペーパレス化
回覧物等の電子化・グループウェア導入
- ・ タブレット活用による業務等効率化
現場帳票等の電子化・リモートアクセス化・タブレット(ipad)導入
- ・ RPAツールの導入

4. LMS導入による効率的な教育訓練環境の整備

- ・ LMS導入

プロジェクト期間 2017年12月 ~ 2018年12月

業務効率化により長時間勤務の解消・ワークライフバランスを実現するとともに、付加価値の高い業務比率を拡大し、更なる企業価値の向上を図る。

当資料に記載されている事業名は管理会計用。開示用に作成している連結財務諸表又は個別財務諸表においては、現時点での事業の性格、量的な重要性等を勘案し、整備事業と施設事業をまとめて整備事業、セキュリティ事業、フードシステムソリューション事業、新規事業、GSE等販売事業をまとめて付帯事業として報告しています。

当資料は、弊社の現在の計画、見積り、戦略、確信に基づく見通しについての記述がありますが、これらは現在入手可能な情報から得られた弊社の判断及び仮説に基づいています。

当資料に記載されている将来の業績予想は、技術、需要、価格、経済環境の動向により変化が発生する可能性があり、将来における弊社の業績は当資料に記述された内容と大きく異なる可能性があります。従って、弊社が設定した目標は、全て実現することを保証するものではありません。

お問合せ先



株式会社エージーピー 経営企画・財務部

電話: 03-3747-1638

FAX: 03-3747-0707

URL: <http://www.agpgroup.co.jp>